勿凝学問 316

野党に助けてもらうんだから与党も譲ってあげないとね
負担を論じるということは給付を論じること

2010 年 6 月 22 日
慶應義塾大学　商学部
教授　権丈善一

「社会保障問題とは結局のところ財源調達問題に尽きる」と、昔から言っている〔Ⅱ巻「はじめに」にも、この言葉はある〕。財源がないと給付の話をしても十円の価値もないし、財源の話を詰めていけば、給付のあり方も決まってしまう。だから、僕にとって、「社会保障問題とは結局のところ財源調達問題に尽きる」というのは、昔から当たり前の命題である。そして、世の中も、そうした話を、ようやく理解できる一歩手前くらいまでやってきたかなという感じだろうかね――今日は、そんな話でも。

まずは、今年の２月１日に、谷垣自民党総裁が、代表質問で次のように呼び掛けたことを思いだそう。

> 最近になって仙谷大臣も消費税増税の検討を急ぐお考えを示され、菅副総理も次期総選挙が想定される 2013 年秋までに方向性を示すお考えを示されていますが、3 年間もの時間を空費している余裕はありません。ここは、与野党が胸襟を開いて持続的な社会保障制度の構築に取り組むべきと考えます。われわれがかつて呼びかけても応じていただけませんでしたが、与野党の立場が逆転した今、自民党は、与党との協議に応じ、社会保障制度改革の具体的メニューと具体的な安定財源の確保策について合意する用意もあります。そのための**超党派の「社会保障円卓会議」を設置し、与野党で検討を深めることを提案します**が、鳩山総理の前向きな答弁を求めます。

そして、上で谷垣さんが呼び掛けた当時の副総理は総理になり、6 月 11 日の所信表明演説の中で、税制の抜本改革を検討するための超党派の「財政健全化検討会議」の設立を、今度は、谷垣さんをはじめとした野党の人たちに呼び掛ける。

> 我が国財政の危機的状況を改善するためには、こうした無駄遣いの根絶と経済成長を実現する予算編成に加え、税制の抜本改革に着手することが不可避です。現状の新規国債の発行水準を継続すれば、数年のうちに債務残高はＧＤＰ比２００％を超えることとなります。そのような事態を避けるため、将来の税制の全体像を早急に描く必要があります。
> 以上の観点を踏まえ、前内閣の下では、私も参画し、経済の将来展望を見据えつつ「中

期財政フレーム」と中長期的な財政規律を明らかにする「財政運営戦略」を検討してきました。これを今月中に策定します。今国会、自民党から、「財政健全化責任法案」が国会に提出されました。

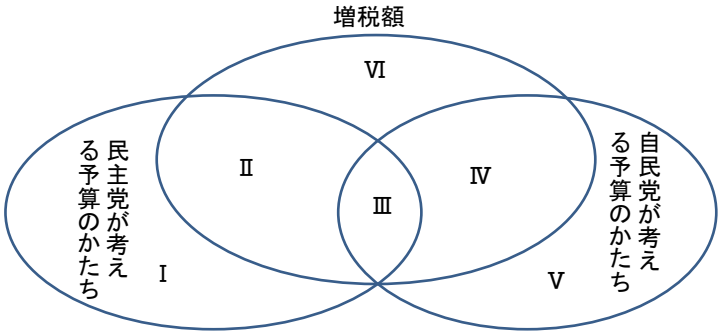
そこで提案があります。我が国の将来を左右する、この重大な課題について、与党・野党の壁を超えた国民的な議論が必要ではないでしょうか。**財政健全化の緊要性を認める超党派の議員により、「財政健全化検討会議」をつくり、建設的な議論を共に進めようではありませんか。**

まぁ、「勿凝学問 310　「日本の経済・国民生活を守る仕事に就く者たちが挙国一致で取り組むべき課題」の意味」でも言っているように、ここは超党派の挙国一致でやるしかないんだけど、与党の民主党議員は心の底から分かっているように、有権者が嫌がることを検討する超党派の会議というのは、与党にとってこそ得な話なんだよね。だからこそ、民主党が野党の時には、この手の会議への誘いは拒みに拒み続けて、僕の言う「新党抜け駆け」こと、みんなの党のポジションを獲っていたわけだろう。

総理が提案する「財政健全化検討会議」は、負担増を論じる会議にならざるを得ず、負担増を論じるのであれば、増税分の使途の話は不可欠となり、増税分の使途は、社会保障と財政再建くらいしかないんだから、結局は、超党派の「財政健全化検討会議」は、社会保障の負担と給付を論じる会議、つまりは自民党が提案した「社会保障円卓会議」にならざるを得ないわけだ。

この時、財政健全化検討会議・社会保障円卓会議の議題は、次のⅠからⅥにカテゴライズできる――議論が面倒になるから、ここでは、民主党と自民党のふたつだけを考えることにするよ。

財政健全化検討会議･社会保障円卓
会議の議題



Ⅰは、民主党がすでに予算に組み込んでいて、来年度以降も継続するつもりでいる施策であり、ⅡとⅢは、民主党が、今後増税で財源を調達することにより行いたいと考えている施策を意味する。この時、Ⅲの、民主と自民の双方が、増税で賄いたいと考えている施策には、たとえば、高齢者三経費のスキマ分の埋め合わせや医療・介護の機能強化、保育諸整備なども含まれることになる。そして、ⅠやⅡに関して典型的な例をあげておけば、Ⅰには現在半額支給の子ども手当、部分的に施行された農家への戸別所得補償制度があり、Ⅱには高速道路無料化、子ども手当、戸別所得補償制度の全面施行、それに基礎年金の租税財源化などを挙げることができる。

さてこの条件の下で、仮に、与党である民主党が、Ⅲに属する高齢者三経費や医療介護保育政策の機能強化を行うための消費税引き上げに協力してくれと自民党に言ったとする。この時、ⅠやⅡに属する政策に反対している自民党は、どう考えても割が合わない。それに、Ⅲの総額は、ⅠやⅡの総額と独立ではなく、Ⅰ、Ⅱが縮小されればⅢは増えるという関係にある。ところが、有権者が嫌がることを議論するために野党が超党派の検討会に参加するということは、明らかに与党側にとってこそ都合のいい話なのである。もっと直接的に言えば、増税を検討する超党派の会議に野党が参加するということは、野党にとっては敵に塩を送ること、要するに野党が与党に票をあげることを意味する。となれば、普通に考えたら、本稿のタイトルである、「野党に助けてもらうんだから与党も譲ってあげないとね」ということになる。要するに、Ⅰ、Ⅱの領域で民主党は自民党に譲歩しなければ、与野党の交渉はあまりにもバランスを欠くのである。

僕なんかは、首相が財務大臣の時に、「増税をしても使い道を間違えなければ景気は良くなる」と発言したときに、増税した消費税の相当額を基礎年金につぎ込む民主党の年金改革案や子ども手当の満額支給は終わったなと思ったし、その財務大臣が、首相になって言う「強い経済、強い財政」を聞くとき、やっぱりそうかと確信していたりもする――だって、せっかくの消費税増税分を基礎年金につぎ込むなんて「強い経済、強い財政」と矛盾するだろう？　マーケットが見限るぞっ。

ちなみに、「強い社会保障」というのは、僕にはどう考えてもイメージがわかない。まぁ、意味よりも語呂の良さを重視する政治家の言葉というのは得てしてそういうものなんだろうけどね･･･付け加えておけば、学者が「強い社会保障」を説明しているのを読んでも、僕には意味が分からない。。。先日、ある雑誌の編集者から「強い社会保障が云々･･･」と電話が来たとき、「僕は政治家ではなく学者なんだなぁ。そんな言葉を使うわけないだろう、アホ」とつれない返事をしてゴメンよ。

話を戻せば、与党がⅠとⅡの領域で我を通しながら、増税しても選挙で不利にならないように野党にも一緒にドロをかぶってもらおうというのでは、谷垣さんが言うように、「馬鹿も休み休みいってもらいたい」というのが正論になってしまうだろうね。となれば、野党が財政健全化検討会議・社会保障円卓会議の場につかず、結果、この国が終わってしまう事態が出来したとき、僕の中では、それは明確に与党の責任だったということになる。要するにだ、負担を論じるということは給付を論じることなのであり、負担増の検討を「まともな野党」に協力を求める与党が、本当に「まともな与党」であるのならば、給付面で野党に譲歩するということは当然の理ということになる――まぁ、そういうことだ。

最後に。

ここ一ヶ月間の永田町での騒動のおかげか？僕を講演に呼んだ人たちが世間から、「今の政権の下で権丈さんを講演に呼ぶなんて、勇気あるなぁ」と言われない状況になってきたようだから、先日、僕が行った会計検査院での話でも――僕は知っているぞっ（笑）。先日、誰かが「えっ、GPIF は権丈さんを呼んだの!?　勇気あるなぁ！?」と言ったことを。。。

でっ、会計検査院のみなさんに僕が言ったこと･･･

> 社会保障のようなフローを、長期にわたって国債で賄っている国家運営のおかしさを指摘するくらいの仕事をやってください。
> 今年から、政府のマニフェストを仕分けする仕事でもはじめてみませんか（笑）。
> 一括交付金の使途のチェックも是非ともお願いしますね。。。

おまけ

社民党が与党にいるとき、僕は、党首お得意の「これはまさに･･･〇〇ですね」という比

喩を聞くことができなくて、ものすごく寂しい思いをしていた。ところが、連立を離脱してくれたおかげて、昨日は、久しぶりに、「これはまさに民主、自民の大連合による消費税値上げ隊に他ならない」との弁を新聞で読んで、ほんっと、社民党が野党になってくれてよかったと実感。。。

参考までに――土井たか子さんご出席の社民党議員研修会で話したこと

勿凝学問 199　消費税と所得税、僕はどっちでもいいですけどね――政治家さん達は、どうぞ政治リスクをご勘案下さい

参考文章

勿凝学問 310　「日本の経済・国民生活を守る仕事に就く者たちが挙国一致で取り組むべき課題」の意味

勿凝学問 312　まともな野党が生まれてきたというこの国の好機――政権交代の意義は、やっぱり、バカな最大野党がいなくなったことなんだよ

勿凝学問 314　囚人のジレンマの制度化は、何が問題なのか？――歯科医師連盟で説明した社会保障の周りで起こっていたこと